

使用の手びき

型式：360L シリーズ



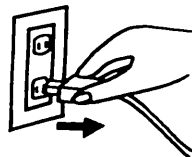
このミシンを安全・快適にお使いいただくために、この「使用の手びき」をご使用前に必ずお読みください。又、この「使用の手びき」は保証書と共に大切に保管し活用してください。

安全にご使用いただくために

ご使用の前にこの「使用の手びき」を必ずお読みください。
このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを守ってください。
このミシンは、日本国内向け家庭用です。
FOR USE IN JAPAN ONLY

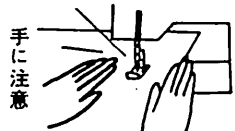
⚠ 警告 感電、火災の恐れがあります。

- 1 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
- 2 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
 - ・ミシンのそばを離れるとき。
 - ・ミシンを使用したあと。
 - ・ミシン使用中に停電したとき。
- 3 コントローラーの上には物をのせないでください。

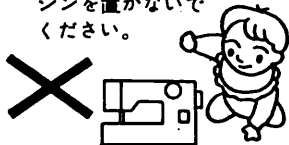


⚠ 注意 感電、火災、けがなどの原因となります。

- 1 縫っているときは針から目を離さないでください。



- 2 お子様の手の届くところにミシンを置かないでください。



- 3 お客さま自身での分解、改造はしないでください。

- 4 ミシンの操作中はかまカバー、面板などのカバー類は必ず閉じてください。

- 5 曲った針、先のいたんだ針はご使用にならないでください。

- 6 裁縫中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。

- 7 以下のことをするとき、電源スイッチを切ってください。

- 針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
- ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください）
- 「使用の手びき」に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
- 原則として上糸、下糸をセットするとき。

- 8 ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店または当社指定のサービス店にて、点検、修理、調整をお受けください。

- 正常に作動しないとき。
- 落下などにより破損したとき。
- 水に濡れたとき。
- 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
- 異常な臭い、音があるとき。

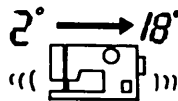
● ミシンの取り扱い

- 1 シンナーやベンジンなどで拭かないでください。



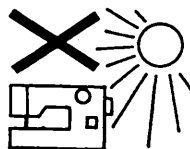
やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて拭きとってください。

- 2 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動ようになります。

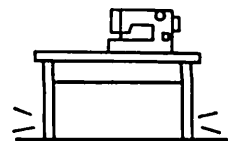


保管はなるべく寒いところをさけてください。

- 3 直射日光に当てたり、高温多湿のところに置かないでください。



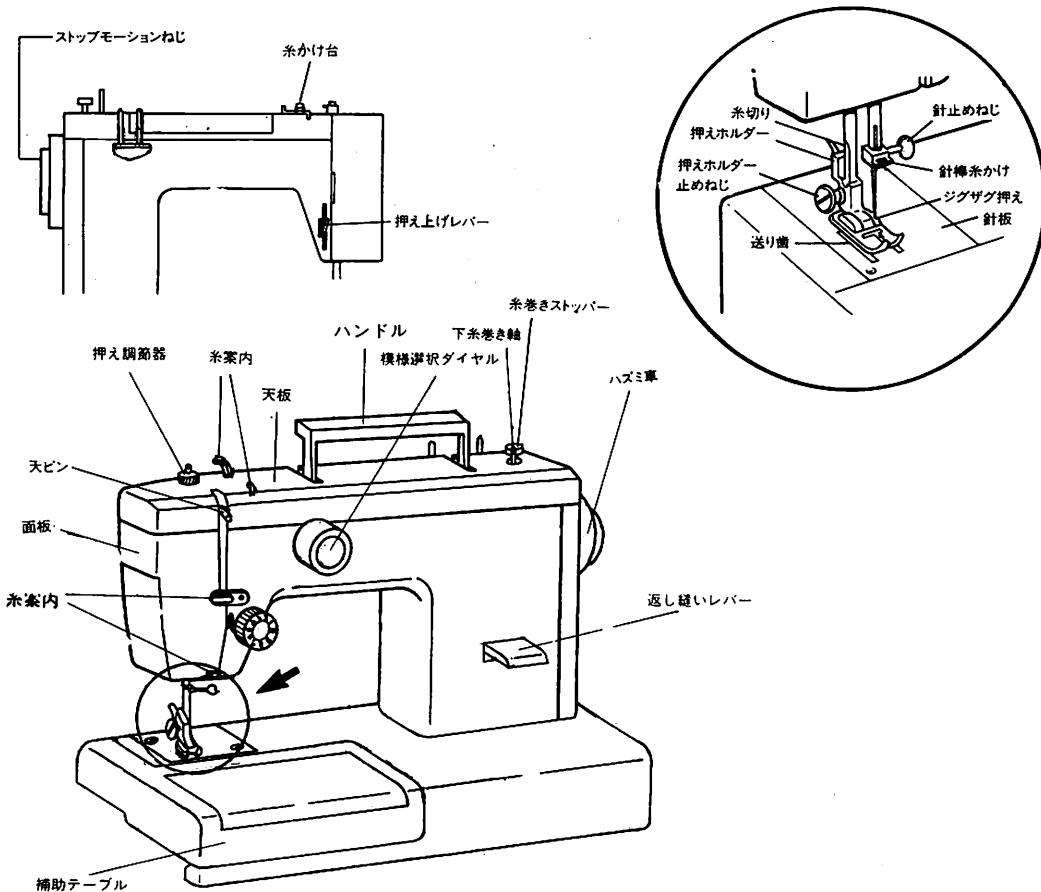
- 4 ミシンを正しく使用するため安定したテーブル、机に置いてご使用ください。



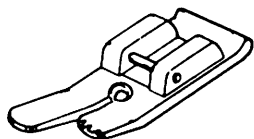
もくじ

1. 各部のなまえ	2	4. いろいろな縫いかた	14
2. 付属品	3	直線縫い	14
3. 縫い始めの用意	4	上糸調子の取りかた	15
電源のつなぎかた	4	下糸調子の取りかた	16
コントローラーの踏みかた	4	・針と糸の選びかた	17
照明ランプ	4	基本ジグザグ縫い	18
針の取りつけかた	5	ストレッチ・ステッチ(伸縮縫い)	19
スナップ式押えの取りかえかた	5	ボタンホール縫い	20・21
下糸の準備	6	ファスナーつけ	22
・ボビンケースの取りだしかた	6	裁ち目カガリ(縁カガリ)	23
・ボビンに下糸の巻きかた	6、7	まつり縫い(ブラインドステッチ)	24
・ボビンをボビンケースに入れるには	8	刺しゅう縫い	25
・ボビンケースをカマに入れるには	8	5. ミシンの手入れ	26
上糸の通しかた	9	カマの掃除と注油	27・28
下糸のひきあげかた	10	電球の取りかえかた	29
補助テーブルの取りつけかた	11	6. ミシンの調子の悪い原因と点検のしかた	30
各ダイヤル、レバーのはたらき	12、13		

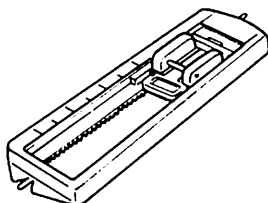
1. 各部のなまえ……………よくおぼえましょう……………



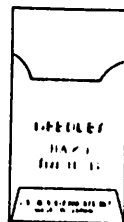
2. 付属品……………活用して楽しいホームソーイングを……………(付属品は補助テーブルに入っています)



直線押え



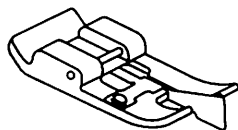
ボタンホール押え



ミシン針



シームリッパー



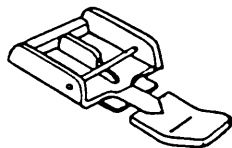
縁かがり押え



ボビン(3コ)



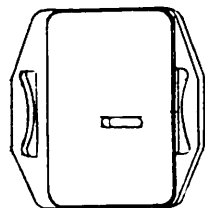
ミシン油



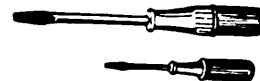
ファスナーつけ押え



フェルト



刺しゅう板

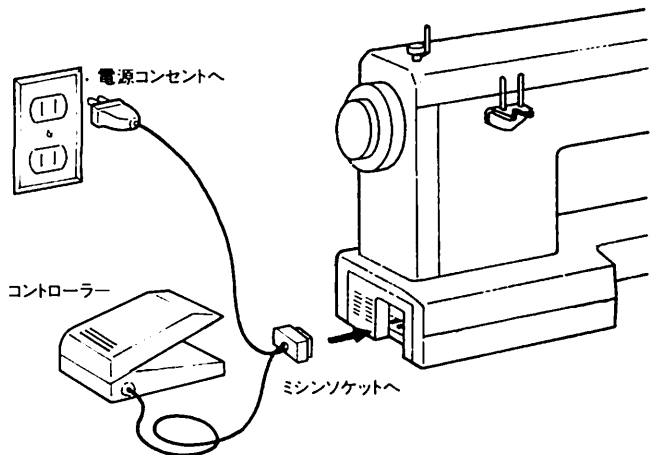


ねじ回し(大・小)

3. 縫い始めの用意

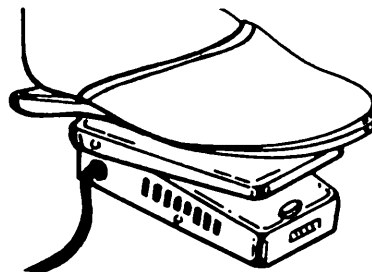
●電源のつなぎかた

図のようにコードプラグをさしこんでください。



※注意：ミシンご使用中は、モーターおよびコントローラーなどは子供に直接手を触れさせないようにしてください。また、ご使用にならないときは、電源コードを必ずコンセントからはずしてください。

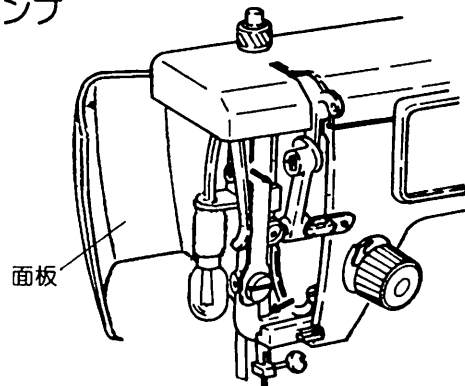
●コントローラーの踏みかた



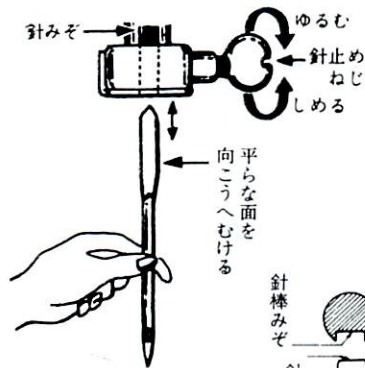
強く踏む→速くなる
かるく踏む→遅くなる

●コントローラーにしずかに足をかけ、ハズミ車を手前に回しながらゆっくり踏んでください。

●照明ランプ

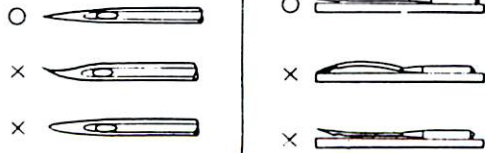


● 針の取り付けかた



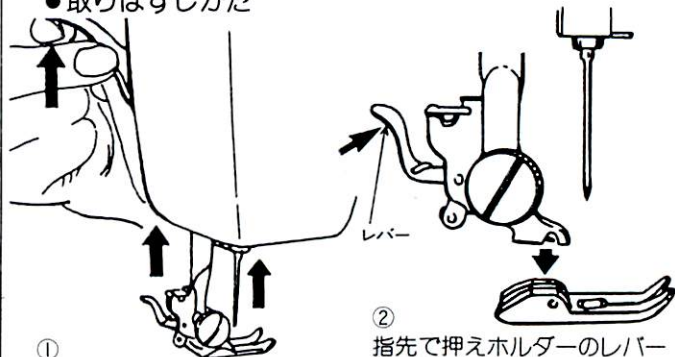
- ハズミ車を手前に回して針棒を一番上にあげます。
- 針止めねじをゆるめます。
- 針の平らな面を向う側へむけて奥までさしこみ、針止めねじをきつくしめます。

● 針は正しい方向でないと縫えません。また、針先がつぶれていないか、曲っていないか常に気をつけましょう。



● スナップ式押えの取りかえかた

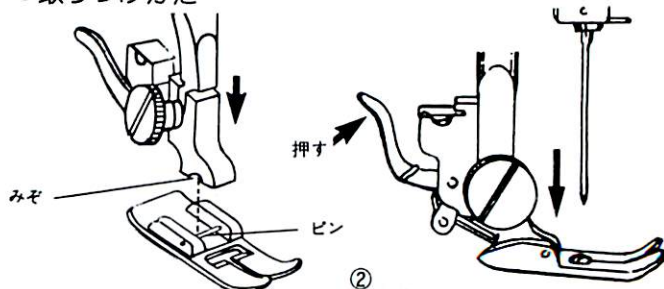
● 取りはずしかた



- ① 針と押え上げレバーをあげておきます。

- ② 指先で押えホルダーのレバーを手前へおすと押えがはずれます。

● 取り付けかた



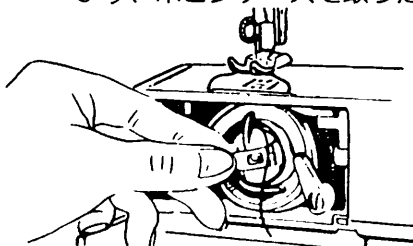
- ① 押えのピンの部分をホルダーのみぞの真下におきます。

- ② しずかに押え上げレバーを下げて、ホルダーのレバーを手前におすとはまります。

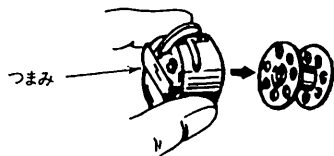
※ どの押えもこの要領で簡単に取り外し、又セット出来ます。

● 下糸の準備

● まず、ボビンケースを取りだしましょう……

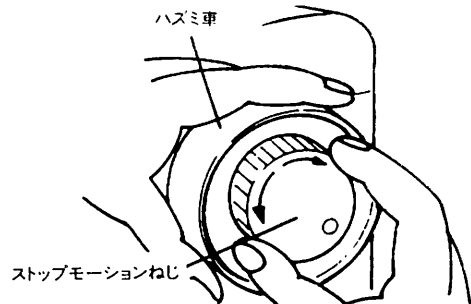


① 針を一番上まであげます。フ
カマカバーをひらき、ボビンケ
ースのつまみをいっぱいにおこ
して、ひきだします。



② ボビンケースのつまみをはなし
て、ボビンを取りだします。

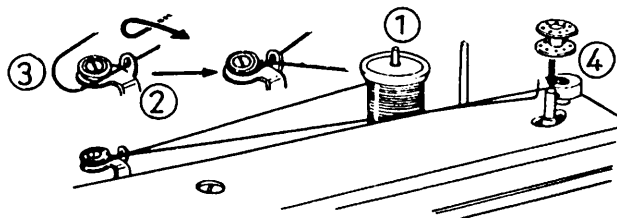
● ハズミ車のストップモーションねじ
をゆるめます……

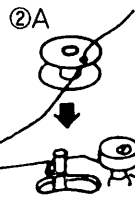


● ハズミ車をおさえ、ストップモーション
ねじを手前に回してゆるめます。

● さあ、ボビンに下糸を巻きましょう……

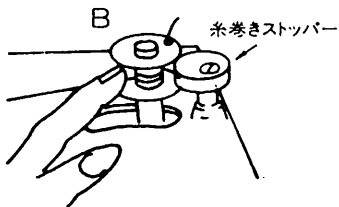
① 糸立て棒に糸巻きをさしこみ、糸を図の番号順に正しく
通して ③タスキにかけ、下糸巻き軸④の方へみちびきます。



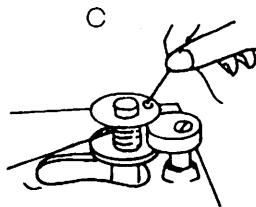


糸はしを
ボビンの
穴に内側
から通す

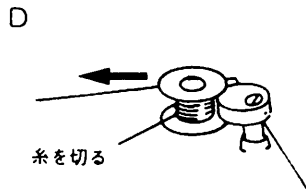
ボビンを下糸巻き軸にさしこ
みます。



ボビンを右へ押しつけます。

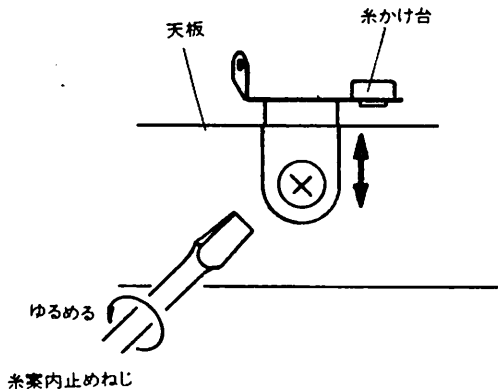


糸はしをもってミシンを運転
し、少し巻けたら、糸はしを
ひっぱって切り、巻きつけ
ます。



巻き終わりましたら、ボビン
を左へ押しして糸巻き軸からはずし、糸を切ります。

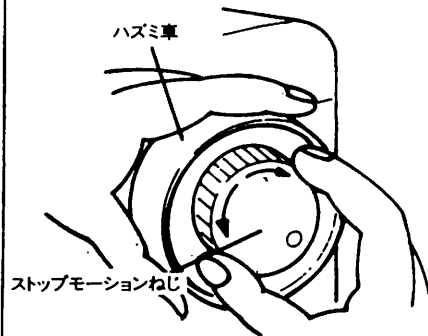
■下糸(ボビン)が平らに巻けないときは……



●止ねじをゆるめ糸かけ台を上または下へ動か
します。



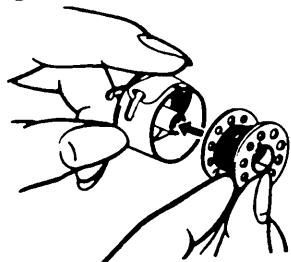
■ハズミ車のねじをしめます……



●ハズミ車をおさえ、ストップモ
ーションねじを向こうへ回して
きつくしめます。

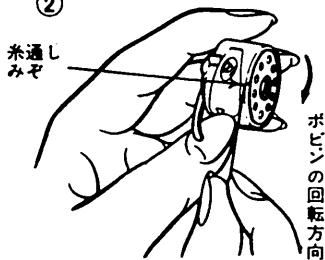
●ポピンをポピンケースに入れましょう…………

①



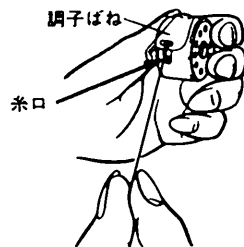
ポピンから糸を10センチほどひきだしておいてポピンをポピンケースの中心へ入れます。

②



糸のはしをポピンケースの糸通しみぞに入れます。

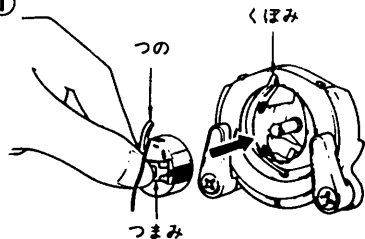
③



糸を左へひっぱると調子ばねの下を通過してポピンケースの糸口へ自然に通ります。

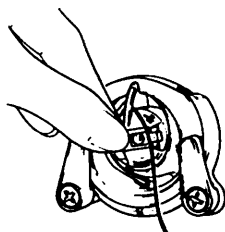
●ポピンケースをカマに入れましょう…………

①



針を一番上にあげておきます。ポピンケースのつまみをいっぱいにおこしてもち、つのがカマのくぼみに入るようにしてさしこみます。

②

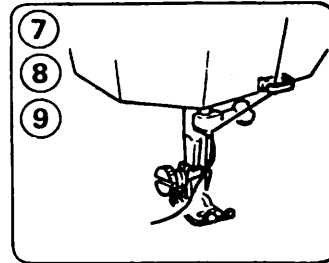
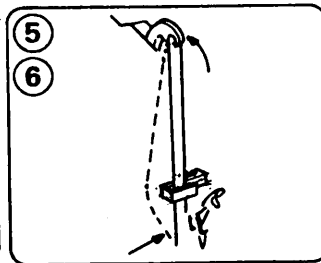
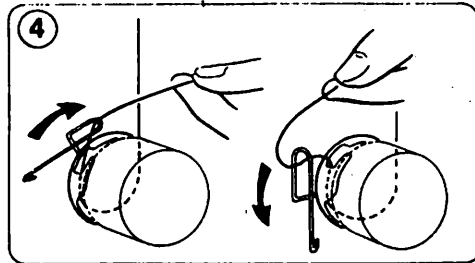
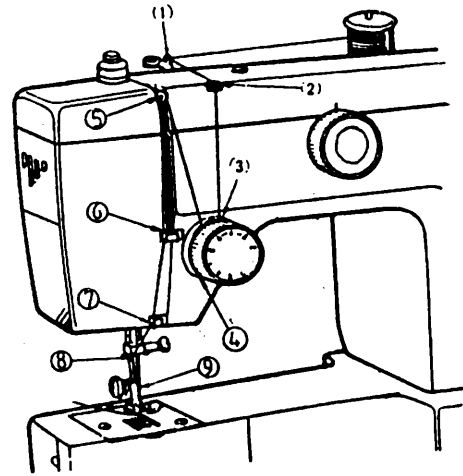
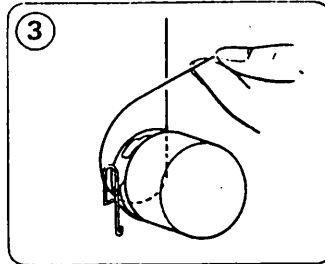
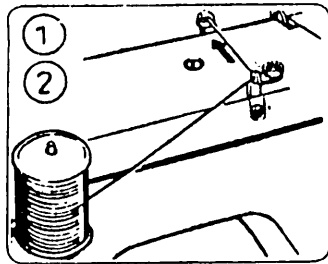


しっかりさしこんだらつまみをはなして、糸をだらしておきます。

- ※注意：●ポピンケースのつまみをおこしている間はポピンはぬけません。
●ポピンケースのつのがカマのくぼみにきちんと入っていないとポピンケースがはずれて、縫えません。

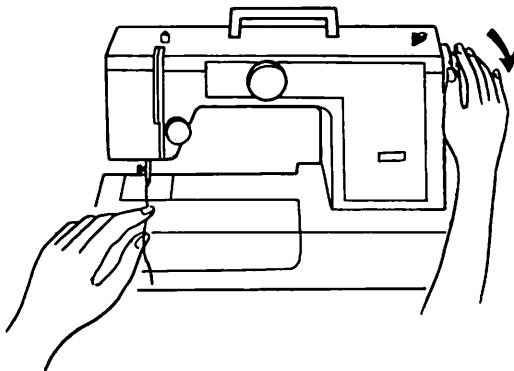
●上糸の通しかた

- ・天ピンを最上部に上げる
- ・天板糸案内に糸を通します①②
- ・糸調子ダイヤル皿の間に右からかけて、糸取りバネに凵のようにかけます。③④
- ・天ピンから糸案内に通します。⑤⑥⑦⑧
- ・針穴へ手前から向う側に通し、押えの下から15cmほど引きだしてください。⑨



● 下糸のひきあげかた

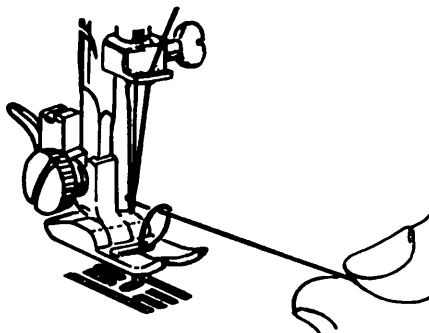
①



- 上糸のはしをもち、ハズミ車を手前へ一回転させます。

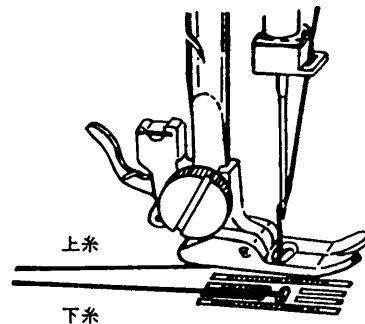
②

針棒糸かけ



- 天ピンが一番上まできたところで上糸をひっぱりあげると下糸が輪になってでてきます。

③



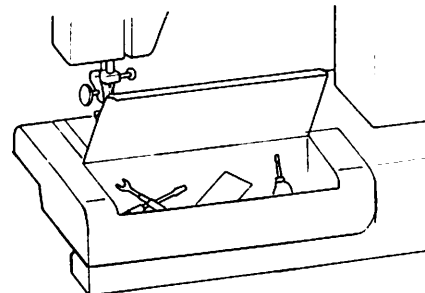
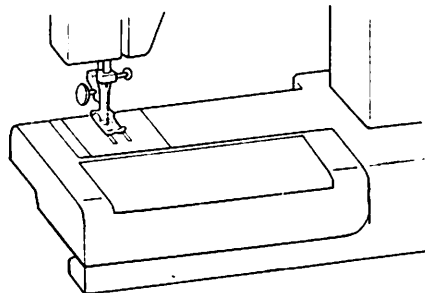
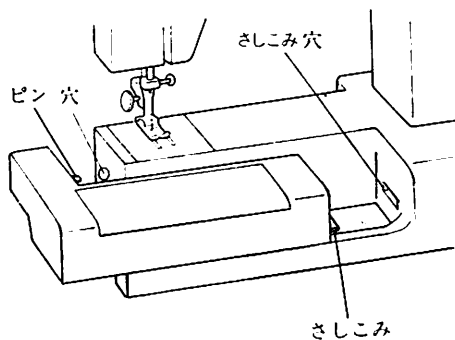
- 上糸と下糸を押えの下から向こう側へ10センチほどひきだしてそろえておきます。

● これで縫い準備は終わりました。

なお、縫い始める前に12、13ページの各ダイヤルやボタンの使い方をよくおぼえてください。

●補助テーブルの取り付けかた

このミシンは補助テーブルのつけはずしでフリーアームにもなります。普通の裁縫のときは補助テーブルをつけた方が裁縫が楽です。外すときは左端を少し上げてから左方へ引いてください。



- 補助テーブルの取り付け
- 補助テーブルはさしこみとピンを穴に合わせるだけで簡単に取り付けられます。

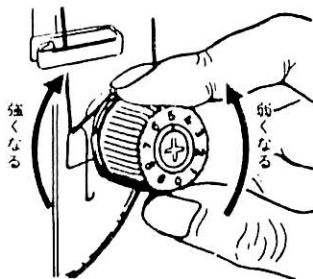
- 補助テーブルをつけると普通ミシンに変身
- カーテン、テーブル掛けなど巾広い布地の場合は補助テーブルをつけると、普通ミシンと全く変らぬ威力を發揮します。

- 付属品がこの中にはっています。

●各ダイヤル、レバーのはたらき…………

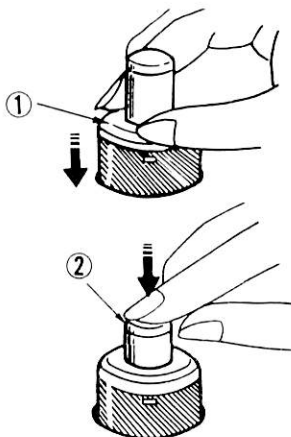
上糸調節ダイヤル

上糸の糸調子を調節します。
数字が大きくなるほど上糸調子がつよくなります。

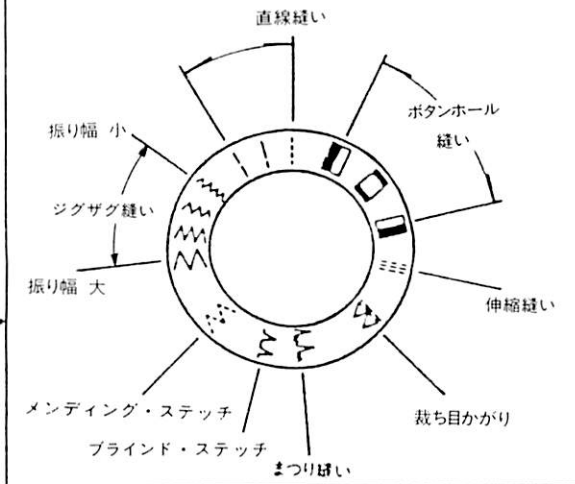


●押え調節器(ダーナー)の調節

- 押えの圧力は、ダーナーキャップ①とダーナー内筒②で調節します。
- ダーナー内筒とダーナーキャップはバネ装置になっておりますから、強弱はきわめて簡単に操作できます。
- ダーナー内筒を上から押すと押えは強くなり、ダーナーキャップを押すと内筒をはね上り押えは弱くなります。
- 普通の布地の場合には、ダーナー内筒を約 $\frac{1}{2}$ 押し込んだ程度でお縫いください。



模様選択ダイヤル



〈模様選択ダイヤルを回すときは、必ず針を布地から上げてください〉

返し縫いレバー



- 返し縫いレバー
- 返し縫い、止め縫いのときに使います。
- 返し縫いレバーを矢印の方向に下げますと、下げている間だけ返し縫いができます。

4. いろいろな縫いかた……………さあ、縫ってみましょう……………

直線縫い

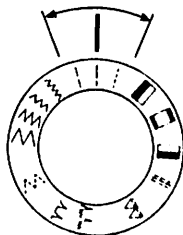
直線縫いはすべての縫いかたの基本です。正しい使いかたをよくおぼえてください。

ミシンの合わせかた

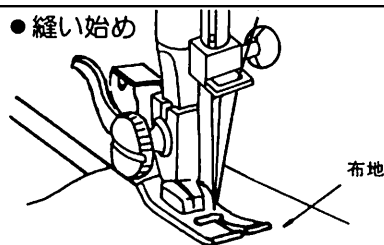
直線押え または ジグザグ押え



模様選択ダイヤル



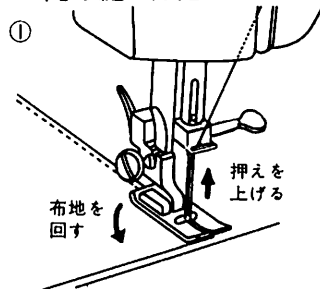
●縫い始め



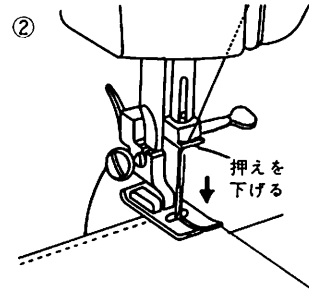
上糸と下糸をそろえて向こう側へ出し、針を布地にさします。

押えを下げて上糸と下糸をかるくおさえながら縫いはじめます。

●角の縫いかた

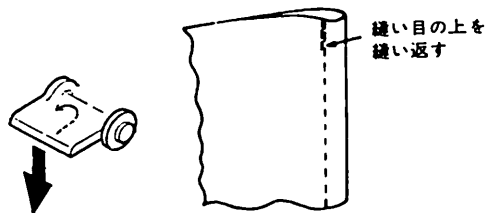


針を布地にさしたまま押えを上げ、布地を回します。



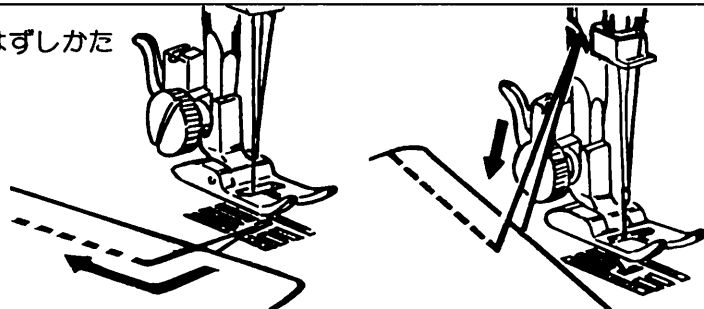
押えを下げて縫いはじめます。

●縫い終わりと返し縫い(止め縫い)



返し縫いレバーを下げたまま、返し縫いで数針の止め縫いをします。

●布のはずしかた



針を一番上まであげて押えをあげ、布地を左斜め向こうへひきだします。

上糸と下糸を10センチほど残して図の糸切りで糸を切ります。

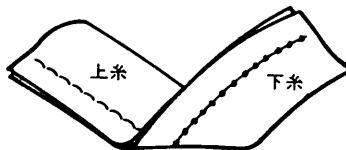
●上糸調子の取りかた……上糸調節ダイヤルで正しい糸調子をきめてください。

○正しい糸調子

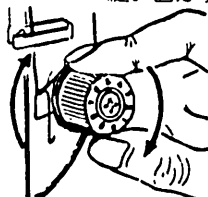


上糸と下糸が同じに見える。

×上糸が弱すぎるとき



縫い目がゆるんでみえる。

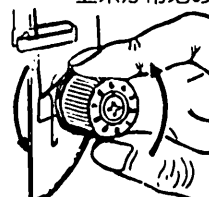


上糸調節ダイヤルを大きい数字の方へ回して上糸調子をつよくなる。

×上糸が強すぎるとき



上糸が布地の表面に直線状になる。

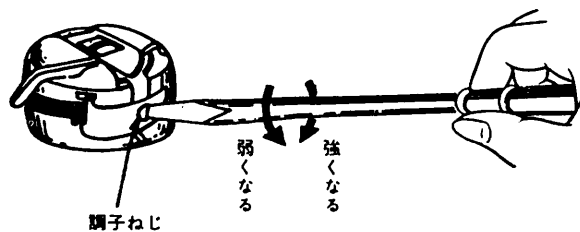


上糸調節ダイヤルを小さい数字の方へ回して上糸調子をよくなる。

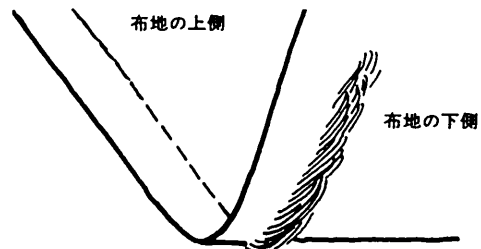
● 下糸調子の取りかた

普通の布地の場合は、上糸の糸調子を調節するだけで正しい糸調子が得られますが、特殊な布地の場合は下糸の調節を必要とすることもあります。

下糸の調子は下図のようにボビンケースの調子ねじを回してください。



● こんな場合は……………



● 布地の裏側がタオル地のようなになるのは…

図のように布地の表側は普通に縫えて、下側がタオル地のようなになるのは上糸の調子がよわいか上糸のかけかたがまちがっています。9ページをごらんの上、正しくかけ直してください。

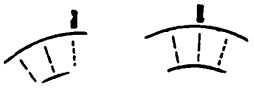

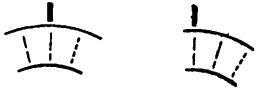
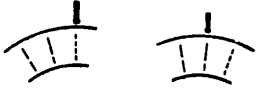
また、上糸調子の調節のしかたは15ページをごらんください。

※注意：布地は送り歯のはたらきによって自然に送られますから手で無理にひっぱったり押えたりせず、手をそえるだけにしてください。

● 針と糸の選びかた

きれいに縫うためには下表を参考にして布地に適した針と糸を使用してください。

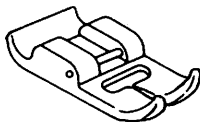
なお、上糸と下糸は普通同じ種類のものを使用してください。

布地の種類	糸の番号	針の番号	縫い目長さ (直線縫い)
薄地—オーガンディー、ジャージ、ポイル、 タフタ、絹クレプ、絹布	綿 80~100 絹 80 化繊糸80	11番	
普通地—ギンガム、ヒケ、リンネル、さらさ木綿、 サテン、薄コーデュロイ、別珍、ビニール、ツイード、 一般服地	綿 50~60 絹 50 化繊糸50~60	11~14番	
厚地—ギャバジン、ツイード、テニム、 カーテン地、ビニール、コーデュロイ、 ボンディングなど	綿 30~50 絹 30~50 化繊糸50	14~16番	
化繊地や伸縮性の布地—ダブルニット、 合わせニット、ナイロン、トリコット、 スパンテックス、ジャージなど	綿 40~60 絹 60 ニット用糸	14番 ニット化繊用針	

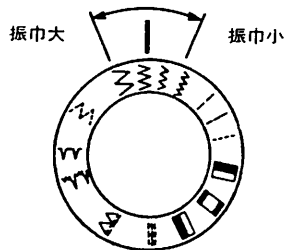
基本ジグザグ縫い

ミシンの合わせかた

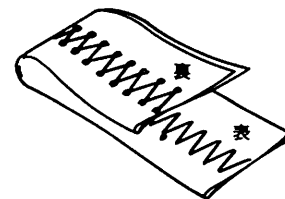
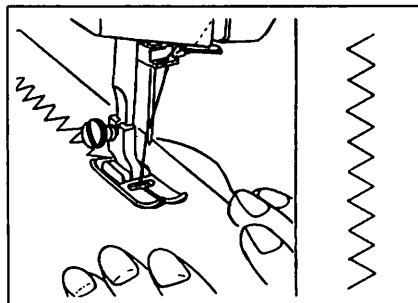
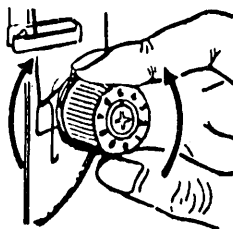
ジグザグ押え



模様選択ダイヤル



上糸調節ダイヤル



布の裏側に上糸が少し出るくらいに糸調子を調節するときれいに縫えます。

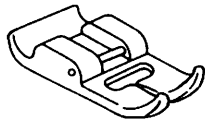
●ジグザグ縫いの糸調子は

ジグザグ縫いの糸調子は直線縫いより弱めに、また、振り幅が広くなるほど糸調子を弱くします。布地にしわがよったり、縫い目がちぢんだりしないよう上糸調節ダイヤルで正しく調整してください。

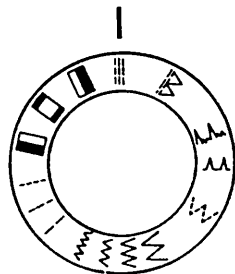
ストレッチ・ステッチ(伸縮縫い)

ミシンの合わせかた

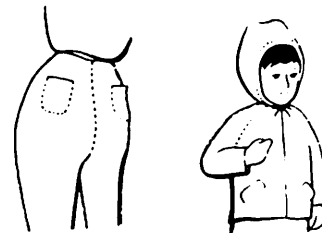
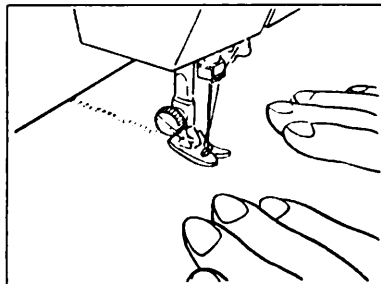
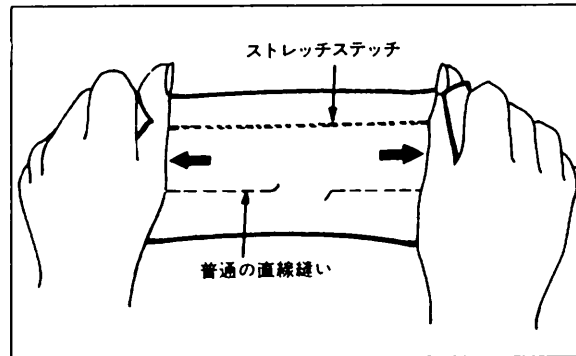
ジグザグ押え



模様選択ダイヤル



ニット、ジャージなど伸縮性のある布地に適した縫い目です。この縫い目はひっぱられても糸が切れないため、とくに強くひっぱられるようなところ、たとえばズボンの股下や股上、肩はぎ、ポケットのはしなど丈夫に縫いたいところに最適です。また飾りステッチとしても利用されます。

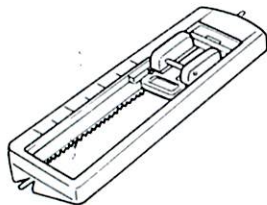


袖ぐり、股がみ、袖口など縫い目に伸びが必要とされる部分の裁縫に。

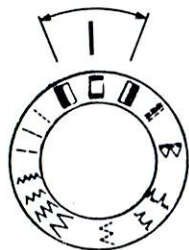
ボタンホール縫い

ミシンの合わせかた

ボタンホール押え



模様選択ダイヤル



ダイヤルの合わせかたは縫いかたの頂をご覧ください。

●赤の表示がボタンホール縫いのセット位置です。

●準備

①普通の押えをはずし、ボタンホール押えを取りつけます。
(交換のしかたは5ページをらんください。)

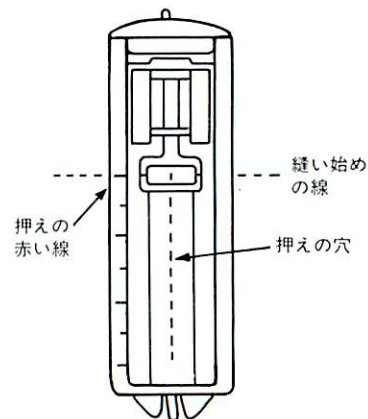
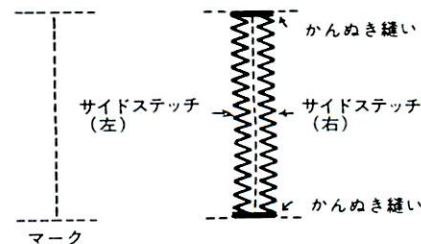
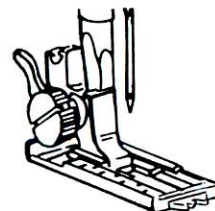
②ボタンの大きさと厚さ、布地の種類に応じてボタン穴の長さをきめます。

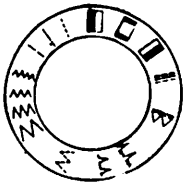
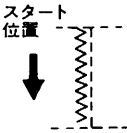
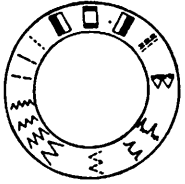

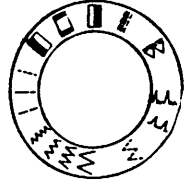
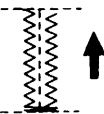
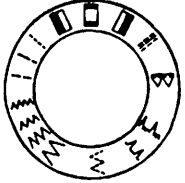

ボタン穴の長さ：

ボタンの直径+厚み

これを布地にマークします。

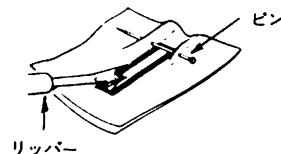
③布地をボタンホール押えの下におき、押えの赤い線を布地の縫い始めの線に合わせ、布地のボタン穴の中心線が押えの穴の中央になるようにして押えを下げます。



ダイヤルのセット順	縫いかた
① 	 <p>図のスタート位置から ゆっくり縫い始めてボ タンホルの寸法位置 でミシンを止め、針を 上げます。</p>
② 	 <p>ミシンを運転して5～ 6針かんぬき止め縫い をして針が右側にきた ところでミシンを止め、 針を上げます。</p>
③ 	 <p>ミシンを運転して左側 の縫い目と平行になる ように右側を図の位置 までゆっくり縫い、ミ シンを止め、針を上げ ます。</p>
④ 	 <p>5～6針かんぬき止め 縫いをします。 なお、振り幅調節ダイ ヤルを直線縫い(A)にセ ットして、1～2針止 め縫いをしてください。</p>

●縫い終わり

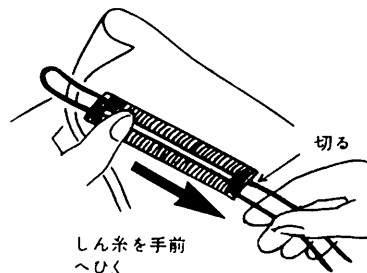
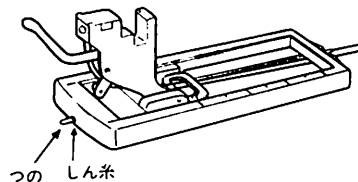
縫い終わりましたら布地をはずして糸を切り、付属のシームリッパーで縫い目を切らないようにボタン穴を切りひらきます。



●しん入りボタンホール

伸縮性のある布地や、丈夫なボタンホールに……

しん糸をボタンホール押えのうしろのつの部にひっかけて押えの下から手前にひき、ひものはしをしっかりともって縫います。

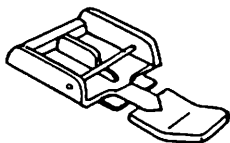


縫いあげましたら、しん糸を押えのつのからはずして、布地をミシンからはずして、図のようにしん糸の両端をひいてたるみをなくし、余分のしん糸を切りとります。

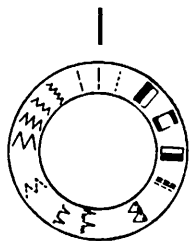
ファスナーつけ

ミシンの合わせかた

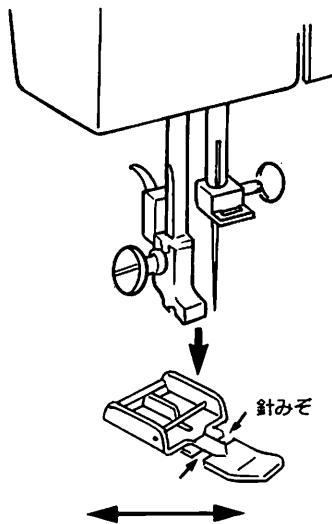
押え



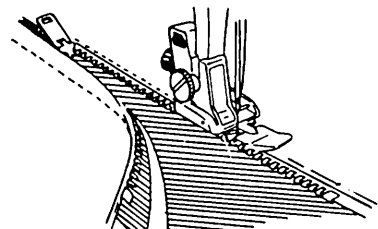
模様選択ダイヤル



ファスナーつけ押えの 取りつけかた



ファスナーを左右縫い合わせる時、
左右のみぞに針をおとすように
押えの位置をかえて下さい。



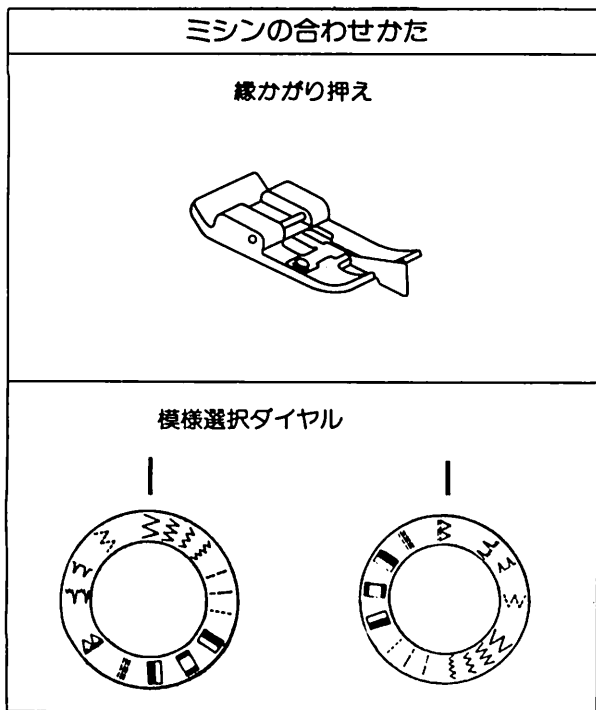
押えは常に布地だけを押え、ファスナー金具を
押えないような位置へ合わせてください。
押えが、ファスナー金具に対して、定規になる
ように合わせますと、ファスナーから針落ちま
でのすきまがそろい美しく縫い上ります。

裁ち目かがり(縁かがり)

ズボン、スカートなどの縫いしろのほつれを防ぐ縫いかたです。裏地をつけない肩、股上、股下、袖つけなどにも利用できます。

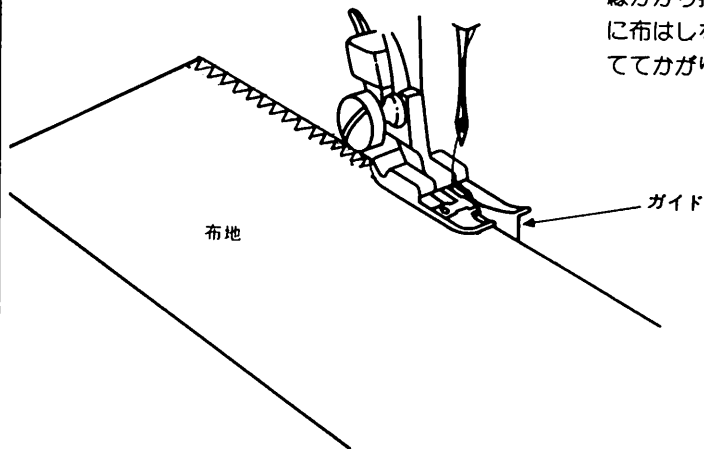
● 縫いかた

布地の右側を縁かがりすると同時に伸縮性のある縫い合わせができます。ニットやジャージに最適です。



● 縫いかた

布はしをまっすぐ裁ち、縁かがり押えのガイドに布はしをぴったりあててかがります。

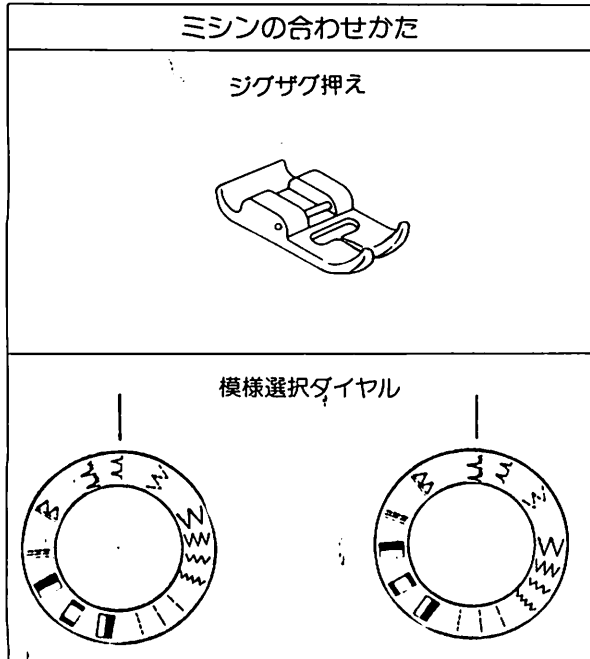


※注意：

- ミシンスピードはゆっくり縫ってください。
- 薄い布地の場合は布はしを2つ折りにするときれいに縫えます。
- 糸調子はゆるめに、また上糸と下糸が布地のはして交差するように調節してください。

まつり縫い(ブラインドステッチ)

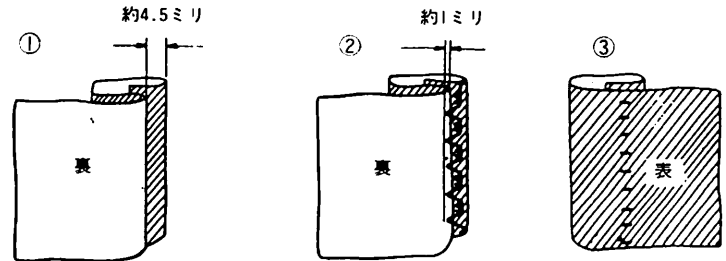
布地の表に縫い目が見えないように縫う方法です。
この縫い目はズボンやスカートのすそ、テーブル掛け、カーテンの端の折り返しなどに利用できます。



※注意：

左側に落ちる針が必要以上にかかりすぎると布が開かなかつたり、表側に出る縫い目が大きくなり、きれいに仕上がりにません。

縫いかた



布地を、裏側が上になるようにして図のように三つ折りにし、折り曲げた上の布を4.5ミリほどひかえます。

左に落ちる針が上の折り山に約1ミリ程度かかるように縫います。

縫いおわりましたら布地を表にひろげます。

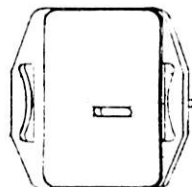
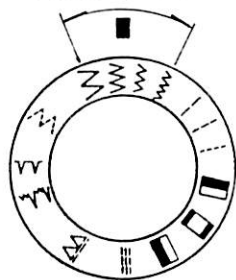
刺しゅう縫い

●刺しゅう縫いのセット

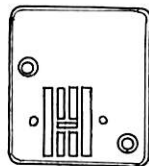
ミシンの合わせかた

押えと押えホルダーを外します。

模様選択ダイヤル



刺しゅう板

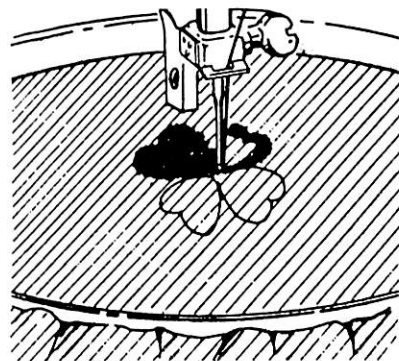


針を最上部に上げ、針板の針穴と、刺しゅう板の針穴が合う様にしてセットします。

●縫い方

- ジグザグ目盛りを最小にして、5～6針止め縫いをします。
- ジグザグ巾を一定にしておき、刺しゅう枠を横に動かして、全体をすきまなく刺し埋めていきます。
- ジグザグ目盛りを最小にして5～6針、最後の刺し目に沿って止め縫いをします。

〔注〕 下糸が出ないように上糸調節器を左に回し上糸をややゆるめて下さい。



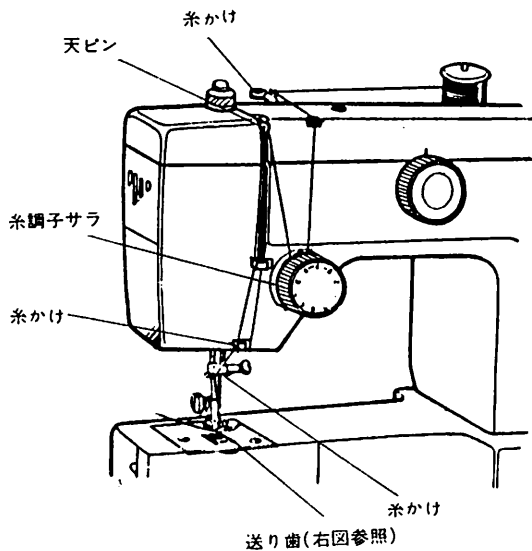
5. ミシンの手入れ

ミシンをいつも調子よく使うためには日常の手入れが大切です。ミシンの表面や図に示す個所にたまった糸くず、ほこりをよく掃除してください。

とくに長期間ご使用にならなかったときは、ご使用前によく掃除して必要なところに油をさしてください。

※注意：掃除の前に必ず電源プラグをコンセントからはずしてください。

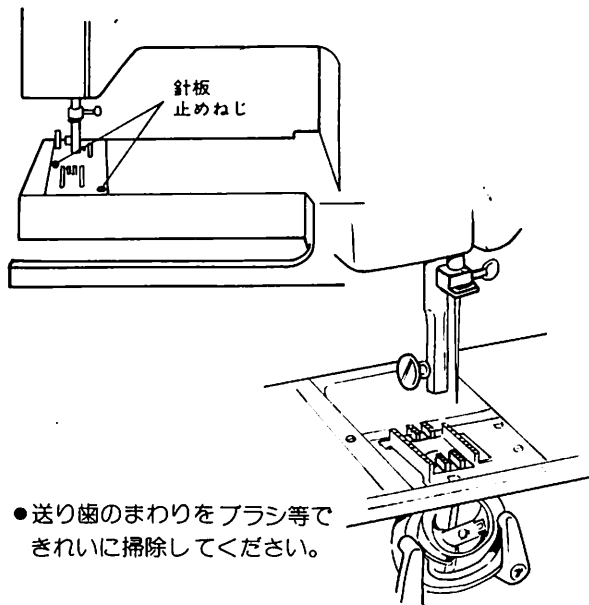
掃除する箇所



送り機構の掃除

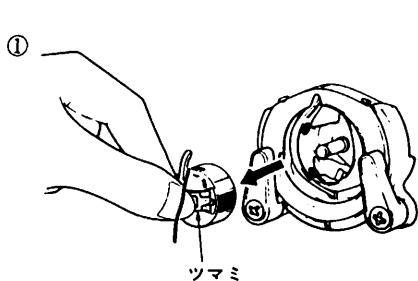
針板と送り歯の間に糸くずやほこりがたまるといういろいろな故障の原因になりますから、つぎの要領で掃除してください。

- 針を取りはずします。
- 押えをホルダーことはずします。
- 2本の針板止めネジをゆるめて針板をはずします。

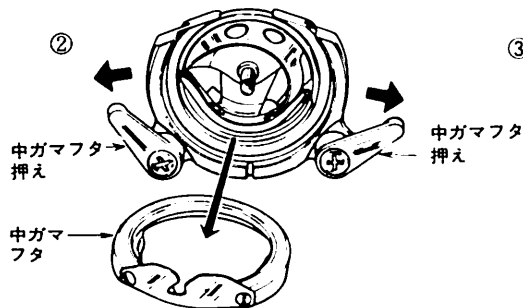


●カマの掃除と注油

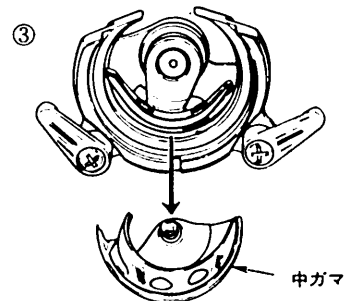
カマの中に糸くずやほこりがたまるとミシンの回転が重くなりますから、つぎの要領でときどき掃除してください。
まず、ミシンを向こうへたおし、ハズミ車を回して針を一番上まであげておきます。



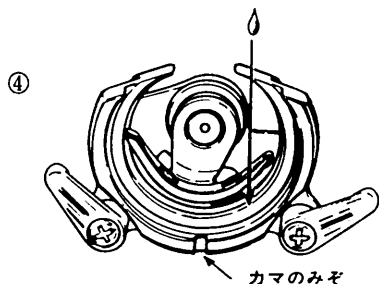
カマカバーをひらき、ボビンケースのツマミを持ってボビンケースを取りだします。



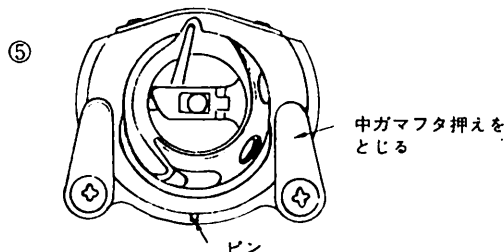
中ガマフタ押えを左右にひらいて中ガマフタをはずします。



中ガマを取りだします。



カマのまわりの糸くずやほこりを取り除き、矢印のところに油を一滴さしておきます。

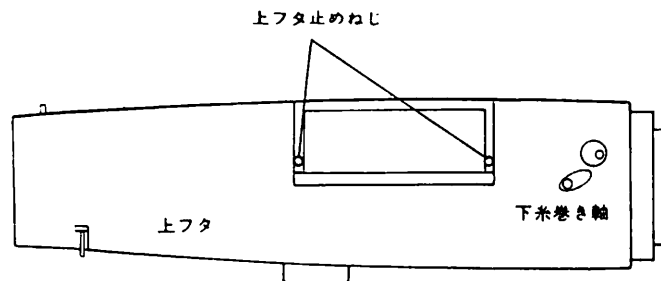


取りつけるときは、中ガマ、中ガマフタの順にはめこみます。このとき、中ガマフタのピンをカマのみぞに合わせます。

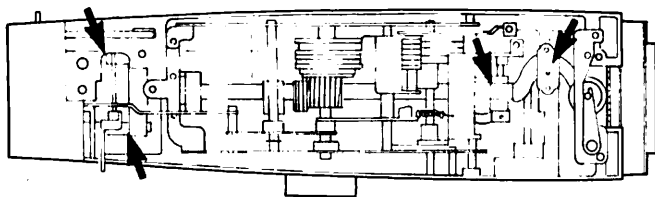
※注意：ハズミ車を回して、針ガスムースに上下するかどうかたしかめてください。

上フタ内部の注油

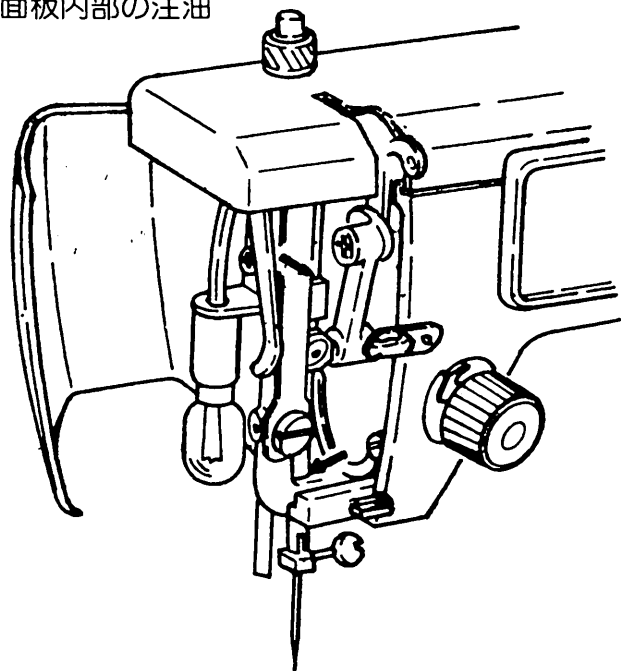
① 2本の上フタ止めねじをゆるめて、上フタをはずします。



② 図の矢印のところに油をさしてください。

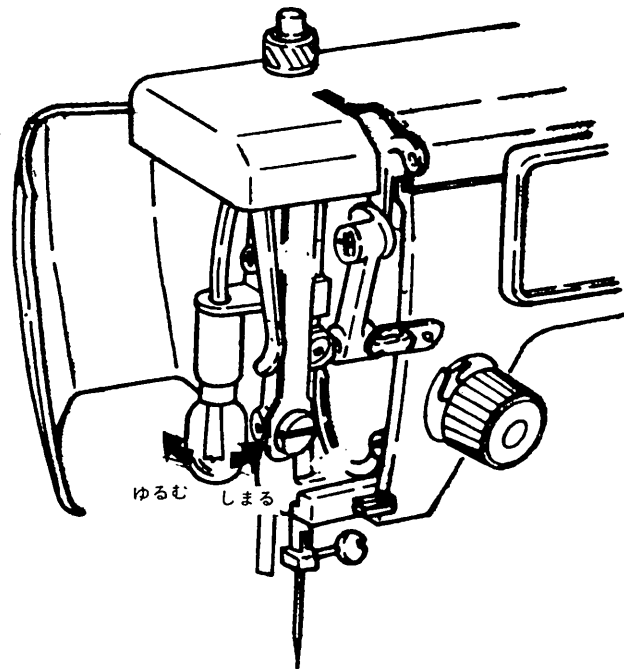


● 面板内部の注油



面板をひらいて、矢印のところに油をさしてください。

●電球の取りかえかた



- 電球を図のように回してはずします。
- 取りつけるときは逆に回してはめこみます。

6. ミシンの調子の悪い原因と点検のしかた

針が折れるのは……………	ページ	縫い目かとぶのは……………	ページ
細い針で厚地を縫ったり、細い針に太い糸を使ったとき……………17		針・糸・布の素材が合っていないとき……………17	
針の取りつけかたが悪かったり、曲った針を使用したとき……………5		針が曲っていたり、針先がとぶれているとき……………5	
布地を無理にひっぱったとき……………16		針が糸の太さと合っていないとき……………17	
針止めねじがゆるんでいるとき……………5		上糸のかけかたがちがっているとき……………9	
押えがゆるんだりして針にあたったとき……………5		針が正しく取り付けられていないとき……………5	
針を布地にさしたまま、模様選択ダイヤルを回したとき……………13		針板の下に糸くずがからまっているとき……………26	
		押え調節が弱すぎるとき……………12	
上糸が切れるのは……………		縫い目に輪ができるのは……………	
上糸のかけかたがちがっているとき……………9		上糸、下糸の調子が完全でないとき……………15、16	
針が曲っていたり、先端がとぶれているとき……………5		布地を送らないのは……………	
針が糸の太さと合っていないとき……………17		ストップモーションねじがゆるんでいるとき……………7	
上糸の調子が強すぎるとき……………15		押え調節が弱すぎるとき……………12	
針の取りつけかたがちがっているとき……………5		布地が縮むのは……………	
糸が必要以外のところにからみついているとき……………9		上糸の調子がつよすぎるとき……………15	
下糸が切れるのは……………		上糸のかけかたがちがっていたり、余分な個所にひっかかっ ているとき……………9	
ポビンケースに糸の通しかたが間違っているとき……………8		布地と糸・針・縫い目長さがあっていないとき……………17	
下糸の調子が強すぎるとき……………16		ボビンに糸が巻けないのは……………	
カムの中で下糸がからみあっているとき……………27		ボビンを糸巻きストッパーに押しつけていないとき……………6	

メ モ

メ 毛

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

1. このマシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
3. 修理サービスについてお問合せやご不審のある場合は、ご購入店または、本社消費者相談室へお申しつけください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手引きに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。

ただし、次に該当する場合は、有料でも修理でもない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。

- イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
- ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地震により不調、故障または損傷したとき。
- ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
- ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- ホ. 職業用として無理なご使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたマシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料の合計額となります。



〒544 大阪市生野区舍利寺3丁目12番5号
TEL:(06)717-5851~3/FAX:(06)741-7875

株式会社 **アックス ヤマザキ**

ミシンの仕様

型 式	360L
定 格 電 圧	100V
消 費 電 力	85W(ランプ15W含む)
周 波 数	50/60Hz
ラ ン プ 定 格	100V 15W 口径 12mm
寸 法	幅40×奥行17×高さ31cm
重 量	7.3kg
コントローラーの コード長さ	電源プラグ～ミシンプラグ間2m コントローラー～ミシンプラグ間1.2m



〒544 大阪市生野区舍利寺3丁目12番5号
TEL(06)717-5851～3/FAX(06)741-7875

株式会社 **アックス ヤマザキ**